

きりひばち いわもときよししょうてん  
桐火鉢～岩本清商店～

【これにのっている写真は、<sup>しゃしん</sup>くりぬきひばち <sup>しゃしん</sup>の写真  
です。】

<sup>きりひばち</sup>桐火鉢は、<sup>きり</sup>桐で作られています。

<sup>そこ</sup>底の部分<sup>ぶぶん</sup>は平ら<sup>たい</sup>になっていて、<sup>そくめん</sup>側面と<sup>ふた</sup>蓋の

<sup>ぶぶん</sup>部分が丸<sup>まる</sup>くなるように<sup>つく</sup>作られています。

だから、<sup>ねんりん</sup>年輪の部分<sup>め</sup>が目<sup>もよう</sup>のような模様<sup>もよう</sup>になって  
います。

<sup>もくめ</sup>木目の部分<sup>ぶぶん</sup>がへこんでいるのでさわっても

<sup>わ</sup>分かります。



しゃしん ちい さいず きりひばち  
この写真のものは小さいサイズの桐火鉢です。

ちゃ ゆ  
茶の湯をわかしたりします。

おお きりひばち  
大きいサイズの桐火鉢もあります。

おお だんぼうよう いま  
大きいサイズのものは暖房用ですが、今はあまり

つか  
使われておりません。

え あこん ひーたー はったつ ふきゅう  
エアコンやヒーターが発達し普及したからで  
す。

くら いえ おお きりひばち  
倉のある家には、大きいサイズの桐火鉢が

てんじょう たか いえ  
天井の高さにとどくくらいある家もあります。

きりひばち つく ほうほう  
桐火鉢を作る方法は、

1. 1. ろくろで木型を作る。

き そくめん ぶぶん  
木をくりぬいてろくろにセットし、側面の部分を

けず  
削っていきます。

おお きりひばち ほうほう かたち  
どんな大きさの桐火鉢もこの方法で形はで

べんり  
きるので便利です。



いろいろ けず は つく おお  
色々な削る刃があって、作るものや大きさによっ

てかえます。お碗や真ん中になにかを入れたりす

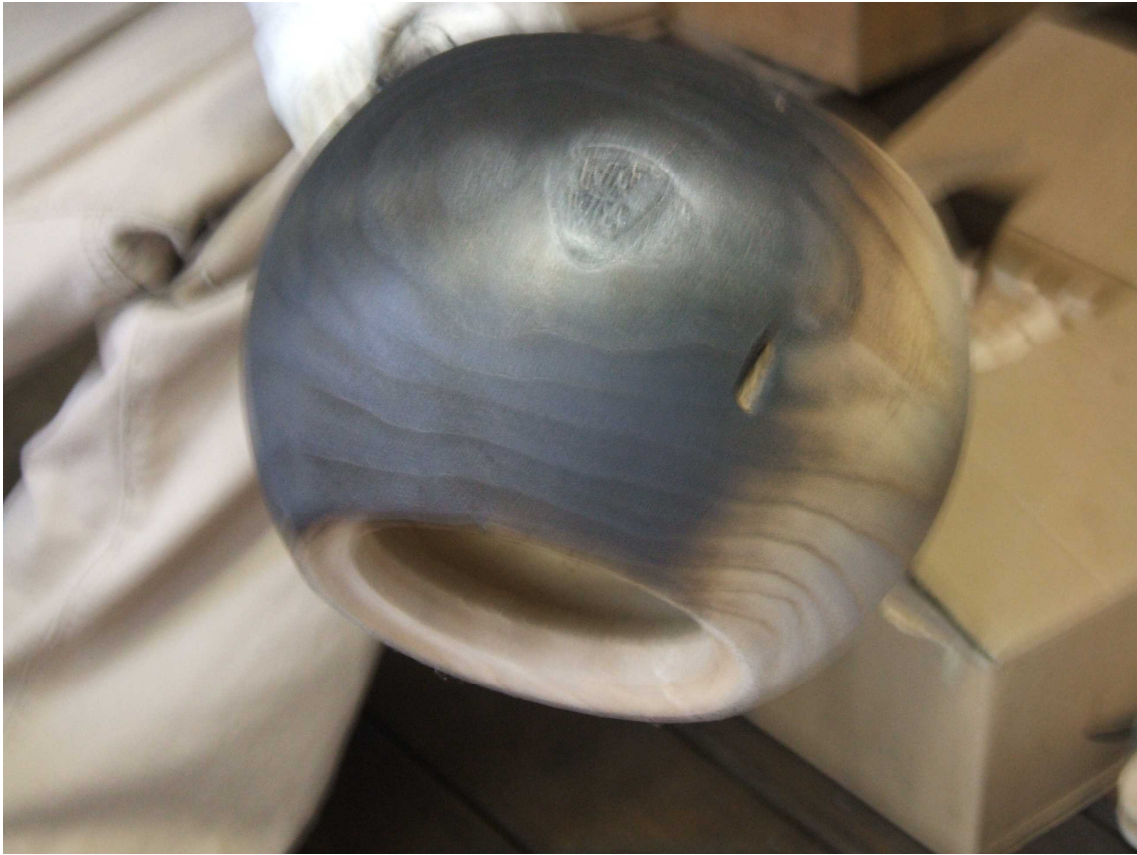
るものもこれで作る<sup>つく</sup>ことができるので便利<sup>べんり</sup>です。

2. バーナー<sup>ばーなー</sup>で表面<sup>ひょうめん</sup>をこがします。

すこ<sup>すこ</sup>しやっただけで色<sup>いろ</sup>があっという間<sup>ま</sup>に変わるの  
なが<sup>なが</sup>で長くやりすぎないようにします。

このとき木目<sup>もくめ</sup>がへこみます。





かいてん ぶらし ひょうめん すす お  
3. **回転するブラシ**で、表面の煤を落としていきます。

すす お まっくろ ひょうめん こ ちゃ  
煤を落とすと真っ黒だった表面が、焦げ茶にかかります。

さいご どうせい あな  
最後に銅製のたらいのようなものをくりぬいた穴に  
くりぬきひばち かんせい  
いれたらくり貫き火鉢の完成です。



もよう  
模様をいれたりもします。

もよう え いし こな うるし  
その模様はまきさび絵といい、石の粉を漆でぬ

ほうほう うるし うえ かぎ  
る方法や、漆の上に飾りをくっつけたら、きれい

もよう  
な模様が、できます



かんとう きり とうき つくって  
関東では、桐ではなく陶器で作っているところ  
もあるそうです。

せ と ひばち しゅるい おお  
瀬戸火鉢という種類が多いです。

き つく ひばち ほか けやき いっぱんてき  
木で作る火鉢には他は櫟などが一般的で  
す。

かたち いろいろしゅるい  
形にも色々種類があります。

はこじょう はこひばち  
箱状にした箱火鉢や、

しゅうのうよう ひきだし ながひばちなど  
収納用の引き出しをあわせた長火鉢等が  
あります。

いわもと きよし しょうてん めいせい しょうがっこう  
『岩本清商店』は、明成小学校

うんどうじょう はんたい でぐち  
運動場の反対の出口をまっすぐ行って

こうきてん てまえ  
交差点のすこし手前のところにあります。  
す。